

光円寺報

2011年 3月

〒679-2323 兵庫県神崎郡
市川町甘地 384
後藤明照、由美子(惟蓮)
T&F 0790-26-0162
メール kouenji_dayo
@nifty.com
<http://kouenji-hou.com/>
通信費年間1000円

回心しなむ
ありしべし

その回心えしんは、日ごろ本願他力真宗をしらざるひと、
弥陀の智慧をたまわりて日ごろのこころにては、
往生かなうべからずとおもいて、もとのこころを
ひきかえて、本願をたのみまいらするをこそ、回
心とはもうしそうらえ

歎異抄

仏教徒宣言(その八十七)

十一日、午後二時四十六分ごろ起きた東北沖の大地震の被害は、目を追うごとに被害の甚大さが明らかになって来ています。地震そのものの被害もさることながら、地震によつて起こされた津波の被害は想像を絶するもので、あの津波の全てを呑み込んでいく有り様に、テレビの画面にくぎ付けになりました。まだまだ救出の手が回らない場所があるようです。被災地の方にはこころよりお見舞い申し上げます。又親類友人などおられる方のご心労もさぞかしと思えます。

あの津波の中にどれほどのいのちあるものが呑み込まれているのか、呑み込まれようとしていたあの車を運転していた人は、同乗者は、トレラーの上を右往左往していた人は……。日常が掻き消えて行く様子に呆然とします。そしていつものながら映像で見ている自分の鈍感さを感じます。

今回の大地震では、復興ということが想像できません。津波が来た場所の惨状もすさまじいものです。しかしそれとともに、家族や家を一瞬に奪った津波に呑まれた場所に、もう一度住めるのかどうか。そしてもう一つ厳しい問題は、地元住民に避難指示が出された原子力発電所による放射能拡散事故です。目に見えない放射性物質に汚染された二十キロ圏内に、はたして人々は住めるのかどうか。

東京電力の福島第一原子力発電所(原発)第一号機が、原発最悪の事故と言われる原子炉内を冷却する為の水を注入する事が出来なくなり、一部燃料棒が溶けて破損するメルトダウン(炉心溶融)を起こしました。その炉心溶融による爆発を防ぐため、今度は海水で冷却しようとしている間に、水素爆発を起こしてしまい外壁を吹き飛ばし、屋外に多量の放射

性物質を放出してしまったのです。そのセシウム・ヨウ素・ストロンチウム・プルトニウム・・・等の放射性物質は、今後、何世代にもわたって総てのいのちに対して、様々な影響を与え続けることでしょう。この目に見えない放射線による被害が『原発震災』です。広島・長崎に原爆が落とされ日本は唯一の被爆国として、あらゆる核に対して反対する立場を取るべきはずだったのが、核の平和利用とエネルギー問題の解決ということで、原発を容認し、推進してきました。しかし「核」から出る放射線は軍事・平和の区別はありません。あらゆるいのちに等しく被害を与えるのでしよう。そして私たち一人ひとりに、これからの生きる方向を問いかけてきます。放射能を出し続ける『原発』と共に生きるのか？と。

今、超危険な放射性物質にまみれながら、いのちを削り事態の收拾をしている人は、決して原発推進の責任者ではありません。被曝した住民も、好きで原発の近くに住んでいるわけではありません。しかし、この事故が起きなくても、「原発労働者」に日常的に被曝させ電気を作っているのが原子力発電です。その被害が今広がったということだけなのかもしれません。それが地震大国日本に55基もあるわけです。皆、海浴いに並んでいるのです。そして私たち一人ひとりがそれを由としてきたのだということ、今つきつけられています。

「仏説無量寿経」に六神通の願が説かれています。その一つに「天眼通の願」と「天耳通の願」が有ります。それは、多くの情報の中から、本当の事を見・本当の事を聞く努力をし、見えない物に思いを馳せ、小さな声に耳をそばだてる。今回の震災を通して見るべきものに目を向け見よ、聞くべきものに耳を傾け聞け。ということかと思えます。

南無阿弥陀仏 秋明照

東北地方太平洋沖地震により被災された皆様にお見舞い申し上げます。 真宗大谷派（東本願寺）宗務所

当派では、このたびの災害に関する救援金を下記の口座にて募っております。皆様のおたのしみご支援をお願いいたします。

(注意) 振込用紙の通信欄に「東北地方太平洋沖地震 災害救援金」と明記くださるようお願いいたします。

宗派の対応について(2011.3.12)

三月十一日(金)

・被害状況の把握に努める。

・災害救援本部会を開く。救援金箱の設置を決定。

・本山内及び大谷祖廟事務所に救援金箱を設置。

(御影堂、阿弥陀堂、同朋会館、参拝接待所、涉成園、大谷祖廟事務所)

・本山職員のパ遣を決定。

・災害救援物資の集約に努める。

三月十二日(土)

【午前】

・災害救援本部会を開く。

・本山職員五名を現地に派遣。

・災害救援金口座を開設し、救援金の勧募を決定。

【午後】

・災害救援本部会を開く。

・現地救援連絡拠点の設置と、黒川災害救援本部長の現地出向、

・本山職員の追加派遣と災害救援物資の搬送を決定。

・仙台教区に対し、見舞金の給付を決定。

山陽教区でも救援金の取りまとめをします。光円寺へご持参いただいても結構です。本堂に募金箱を設置します。

加入者名 真宗大谷派宗務所 財務部 (救援金)
郵便振替口座 01030-4-2244